

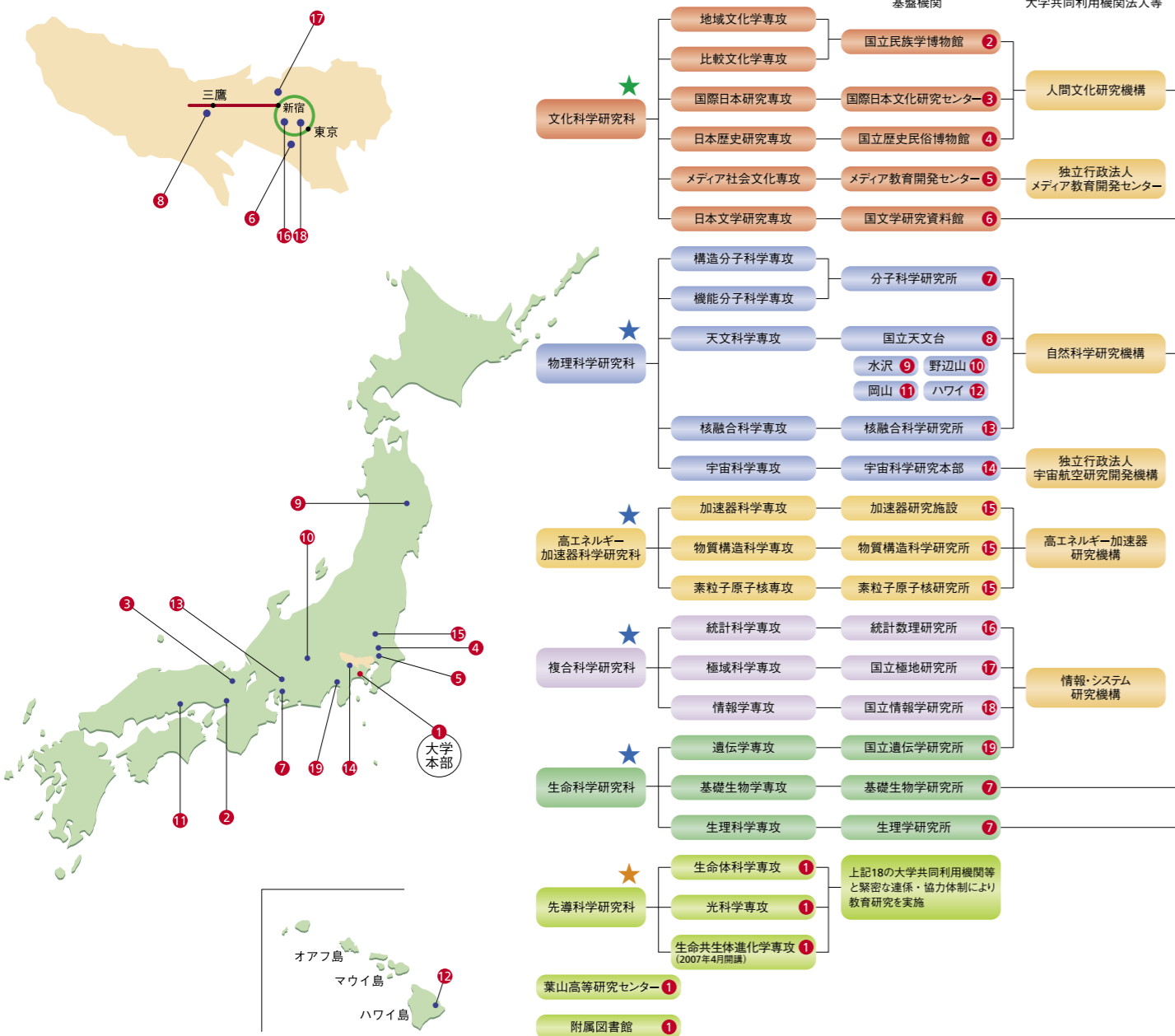
総合研究大学院大学の概要

総合研究大学院大学（総研大）の基盤は大学共同利用機関です。大学共同利用機関は日本が世界に誇るトップレベルの研究組織で、各種の大型の実験・観測施設および学術資料を保有しています。国内外の大学研究者が共同で利用できる国際的な研究拠点でもあり、多様な研究者集団と接する研究環境がつけられています。

総研大では、学生1人に対し教員数は2.5人という充実した体制で博士教育をおこなっており、その期間についても5年一貫のフレキシブルな制度を取り入れています。



- ★ 後期3年だけの博士課程
- ★ 5年一貫制博士課程／後期3年だけの博士課程
- ★ 2007年から5年一貫制博士課程／後期3年だけの博士課程
(生命体科学専攻、光科学専攻は後期3年だけの博士課程)



SOKENDAIトピックス 2006年8月～2007年1月 ※トピックスの詳細は<http://www.soken.ac.jp/education/2-1.html>で紹介しています。

- 地域文化学・比較文化学専攻 (2)** 総合日本文化研究実践教育プログラム「食から見た日本文化の国際的受容と日本における文化変容」の成果として、「世界を食べる日本、日本を食べる世界」をホームページで公開。
- 日本歴史研究専攻 (4)** 地域研究の方法を多角的に学ぶ集中講義をフィールド(青森県八戸)で開講
- 構造分子科学専攻 (7)** 可視紫外巨大光電子磁気円二色性を、横山教授らが発見。
- 機能分子科学専攻 (7)** 強レーザー場を用いた分子構造変形過程の制御に、菱川助教授らが成功。
- 核融合科学専攻 (13)** 大型ヘリカル装置による高圧力プラズマ閉じ込めで、4.8%の高ベータ値達成。
- 宇宙科学専攻 (14)** 「ひので」衛星の打ち上げに総研大生4名がロケット班等で参加し、打ち上げの成功に貢献。この実習は単位となる。
- 物質構造科学専攻 (15)** インスリン受容体の立体構造を決めるデータを、KEKフォトンファクトリーで取得することに成功。20年来の謎であったインスリンの鍵穴が明らかになった。
- 素粒子原子核専攻 (15)** 加速器実験で再現したクォーク・グルーオン・プラズマを、超弦理論で説明する研究に特化した初の会合を開催。
- 統計科学専攻 (16)** 赤池弘次名誉教授が第22回京都賞(基礎科学部門)受賞。情報量規準AICの提唱による統計科学・モデリングへの多大な貢献により。
- 遺伝学専攻 (19)** 遺伝研のスーパーコンピューターシステムが新システムに移行。2年後の増強を前提として今後5年間、専攻内外の学生と研究者にとって必須のバイオ情報環境を提供していく。
- 基礎生物学専攻 (7)** 発生・再生・がん化にかかわるタンパク質Wnt(ウイント)の分泌メカニズムを、高田教授らが解明。パルミトレイン酸の付加がWnt分泌に必須であることが明らかに。
- 生理学専攻 (7)** 色のカテゴリー判断にかかわるニューロンを、小松教授らが発見。
- 光科学専攻 (1)** 微細藻類ドリムシの光センサータンパク質の導入により、ショウジョウバエの行動を光制御(Nature Methods)することに、渡辺教授らが成功。